



古牧地区「ながの未来トーク」を開催

10月21日(金)古牧公民館で荻原健司長野市長をお迎えして「ながの未来トーク」が開催されました。コロナ禍のため参加者の人数を制限しての開催です。

市議会議員の小林秀子氏、竹内茂氏、金沢敦志氏、長野市からは下平嗣企画政策部長、宮岡靖地域市民生活部長、北澤善幸都市整備部長ほか3名、住民自治協議会から塩入茂会長を含めて役員25名が参加しました。

この未来トークは古牧地区が抱える課題について、長野市と意見交換を行い、課題解決に向けた取り組みなどの提案を行うもので、今回、「生活道路での交通安全対策について」、「都市計画街路(高田若槻線)の上高田地籍までの延伸について」、「隣組長の業務の負担軽減について」の3つの議題について意見交換が行われました。

「生活道路での交通安全対策について」では、古牧地区から担当の宮島茂安全部会長、宮沢健治交通安全部長から議題に関する取り組み状況、課題解決に向けての提案などを行い、区長からは生活道路での交通規制などの要望がありました。

長野市からは、引き続き、古牧地区とともに力を合せて交通安全に取り組んでいくとともに交通規制については、関係の警察などと調整しますとの回答がありました。



「都市計画街路(高田若槻線)の上高田地籍までの延伸について」では、西澤征防副会長・総務部会長から五分一から上高田までが未整備区間となっており、今後、早急に「高田若槻線」の延伸を押し進めていただきたいと提案がありました。また、沿線の原保則五分一区長からは、「路線の予定地に土地を所有している区の方から自らの土地利用計画が立てられない」など区の皆さんの声の紹介などがあり、積極的な取り組みをお願いしたいとの強い要望がありました。

長野市からは、現在、将来にわたって効果的で効率的な整備を推進するため適切な規模、配置となるように都市計画道路を見直しており、高田若槻線は見直し原案で廃止候補でしたが継続検討候補になりましたとの説明がありました。

「隣組長の業務の負担軽減について」では、込山正川端区長から、高齢社会に伴い高齢者世帯の皆さんも輪番により隣組長を務めているが、定期的に発行される各戸配布物、募金の集金業務などを中心に隣組長の業務について負担軽減になるよう実態の把握と見直しの検討をお願いしたいとの発言がありました。

また、武重博明西和田区長からは、現在、区の役員不足により隣組長を巻き込んだ組織改正に取り組んでおり、隣組長の業務の負担軽減は大事な課題であるとの発言がありました。

次ページへつづく

長野市からは、各戸への「広報ながの」配布物などをはじめ隣組長には引き続きご負担をお願いすることになるが、ご協力をいただきたいとの発言がありました。

最後に、長野市の荻原市長から、これからの住民自治協議会のあるべき姿などについての検討の必要な時期ではないかとの発言などがありました。
(総務部)

「社会を明るくする運動」住民集会を開催

10月1日(土)「第72回古牧地区社会を明るくする運動」の住民集会が古牧公民館で開かれました。住民自治協議会、関係の各種団体、更生保護女性会、保護司会などがつくる運動推進委員会の主催で、コロナ禍のため参加者を限定しての開催となりました。

「社会を明るくする運動」は、全国的な運動で地域が力を合せて、犯罪や非行のない地域を築き、罪を犯した人たちの更生についての理解を深めて明るい社会を作るものです。

集会では、推進委員会塩入茂会長のあいさつの後、社会を明るくする運動作文コンテストの法務大臣受賞作を映画化した「フクロウ人形の秘密」を鑑賞しました。この作品は、小学生が母親と刑務所の展示即売会で木彫りのフクロウ人形を見つけ「なんで刑務所の中でこんな作品を作っているのか？」と疑問を持ち、少年受刑者たちの職業訓練の様子などを刑務官から話を聞き、厳しい家庭環境、抜け出せない貧困のループ…。罪を犯す人達は家庭環境が大きく関わっていることを知り、大き



な社会問題であるけれど小学生の自分にも何かできるはずと訴えかける作品です。

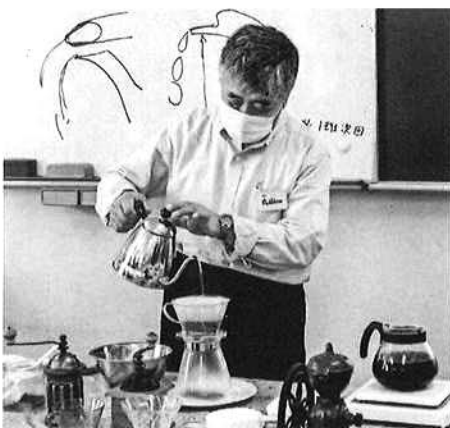
また、古牧地区保護司会伊藤聡志氏から「更生保護と保護司の仕事」と題して保護司の活動、児童養護施設の現状などについてお話がありました。

最後に古牧地区更生保護女性会佐藤梨枝子会長により、社会を明るくする運動の内閣総理大臣のメッセージの朗読があり、改めて、社会を明るくする運動の取組みについて確認し、住民集会が終了しました。
(総務部)

男性の珈琲教室を開催

10月4日(火)古牧公民館で「男性の珈琲教室」が11名参加して開催されました。

この教室は、当初、9月に行われる予定でし



たがコロナ禍のため中止になりましたが、10月に延期して3回のコースで開催することが

できました。講師には、珈琲を淹れるボランティアグループ「カフェボラ善」の丸山幹雄氏をお迎えし、珈琲豆のこと、おいしい珈琲の淹れ方などを学びました。教室では、受講生が持参したドリップ用具を使いながら、ブラジルやブルーマウンテンなどの香り豊かな珈琲豆の抽出方法を教えていただきました。

受講生からは、「今まではインスタントが主流でしたが、時間を作ってゆっくりと味わいたい」「和気あいあいとした雰囲気楽しかったです。益々、おいしい珈琲を淹れられそうです。」などの感想がありました。

(福祉健康部)

交通安全街頭啓発に荻原市長が参加

10月5日(水)に西尾張部交差点で毎月第1水曜日の早朝に交通安全協会とともにっております交通安全街頭啓発活動に荻原健司市長が参加されました。

荻原市長は、三陽中学校の生徒の皆さんと一緒にマイクで国道を走っている車の運転手に向けて「安全運転で事故の無い長野市を」と訴えておりました。

当日は、古牧地区の市議会議員、長野市、中



荻原市長と三陽中学校の生徒達



央警察署、住民自治協議会の関係役員をはじめ三陽中学校の生徒など75名が参加し、通行する車の運転手、歩行者、自転車の皆さんに交通安全の大切さを伝えました。(交通安全部)

歴史探索

ぐるりわがまち

北条区

北条の蚕神様

古牧郷土史研究会 傳田 隆治

守田酒神社境内の西側に今は交通安全の神様になっている石祠があります。注意して見ますと元々は蚕神様の祠であったことがわかります。高い石組みの上にある祠の石に彫刻された扁額には「蚕神」の文字(写真1)が彫られています。また、その上部には蚕蛾と卵のようなものが彫られています。石祠の台座正面には「おしら様」や遠野物語と関連の深い馬の彫り物(写真2)が、また、石祠の左右側面には何か養蚕にかかわりがあると思われる彫り物(写真3)がされています。明治29年に北条組により建立されました。石工は上水内郡旧吉村の田中重吉正信です。このような蚕神様の祠は古牧でもまたその周辺でもあちこちで見受けられ、その昔養蚕が盛んであったことがわかります。

北条辺りでは昭和30年代はじめ頃まで養蚕が行われていました。石祠が建立された明治

29年ごろには養蚕が村の経済にとって重要な位置を占めるものになっていたことがわかります。

戦後ナイロンなどの化学繊維に押されるなどして昭和30年代に入るとこのあたりではお蚕様(かいこさま)を飼わなくなり、蚕神様はその役目を全うしました。そして社会は高度成長期へ、



次ページへつづく

そして車社会へと移り日ごろの気がかりは交通事故となりました。今、蚕神様の祠は交通安全の神様となって地域の安全を見守っています。



写真1

す。その昔にこの辺りで養蚕をしていたという痕跡はこの蚕神様の祠以外はなくなりました。交通安全を祈るとともにお蚕様のことも忘れずに後世に伝えていきたいものです。

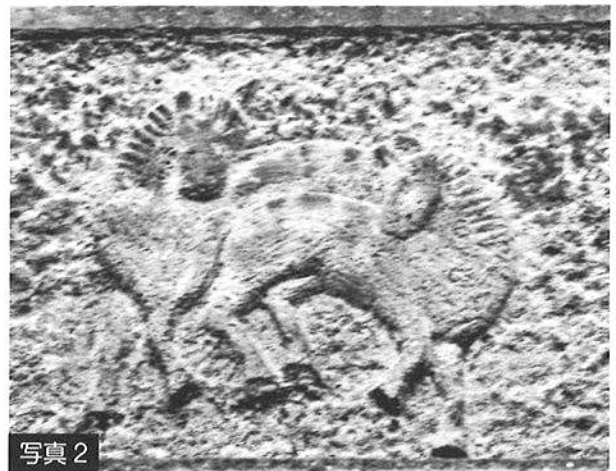


写真2

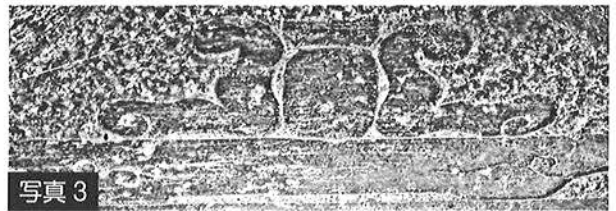


写真3

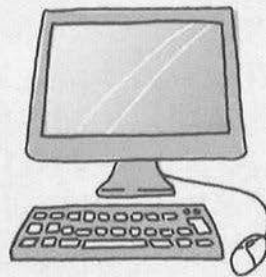
娑婆鉛筆

1979年にNECからパーソナルコンピュータ「PC-8001」が発売され、CPUは8ビット、メモリ16KB、モニタ・記憶装置なしで当時の本体価格は168,000円。社会人になって間もない自分にとっては高価な買い物だったのでローンで購入した記憶がある。役に立つかどうかも分からない「代物」だったが、趣味としてみれば非常にマニアックで知的好奇心をくすぐるだけの価値はあった。BASIC言語を覚えてプログラムを組み、何とか仕事に生かしたいと言う前向きな目的だけは持っていた。1995年、新OSとしてWindows95が発表されるとやはり新しいパソコンが欲しくなったが、すでに家庭もあったので奥さんと交渉、「仕事に使うから？」などの理由をつ

長いお付き合い

けて何とか手にする事が出来た。当時の宣伝ではインターネットへの接続は簡単に出来るはずだったが、ネットワークの知識は必須だったので、自宅に環境を構築するまでは毎日が試行錯誤の繰り返しだった。この頃になると、会社でも仕事にはパソコンが必須となり、ネットワークで皆が情報を共有することが当たり前前の時代となっていた。今ではグローバル環境が整備され、パソコンが1台あれば、情報の検索やショッピング、メール、ブログ、音楽を聴いたり、写真や動画を見たり、孫とも遊べて、リモートで仕事も出来るので40年を超える時間は本当に「長いお付き合い」であったが無駄ではなかったと思っている。

(田中雅巳)



11月から12月までの主な行事実施日のお知らせ → 回覧等でお知らせします。



古牧地区の世帯数と人口

令和4年10月1日現在

11,775世帯

(男 13,086人

26,467人

女 13,381人)

- 発行所 古牧地区住民自治協議会
(電話 259-8359・FAX219-1057)
(E-mail:komaki@vivid.ocn.ne.jp)
- 発行者 塩入 茂
- 編集 ぷらネットこまき編集委員会
- 印刷 SR



HP
ご覧ください